



第11期サステナビリティ経営研究会 第3回研究会プログラム報告

《テーマ》 『 CFP(カーボン・フット・プリント) 』



▲応用講座「最近の環境動向と定量型環境ラベル

一定量的な環境情報開示 タイプ III 環境ラベル」

一般社団法人 産業環境管理協会

製品環境部門長付兼 LCA 事業推進センター エコデザイン事業室長 平野 学氏 (東京)

製品環境部門長付兼 LCA 事業推進センター エコデザイン事務室 石塚明克氏 (大阪)

IPCC の第 5 次報告にもあるように、温暖化問題および気候変動問題は深刻であり、やはり CO₂ の削減が重要となっている。そのために産業界は、環境マネジメントシステムに則った継続的環境改善や、エコデザインによる製品開発をとるべきだと思われる。エコデザインとは製品のライフサイクル全体にわたっての環境側面を組み込んだ製品設計であり、開発に際しては、環境負荷の見える化、サプライチェーン全体の排出量の見える化が必要となる。LCA を使ってこれらが見える化することで、全体最適化の実現、環境への取り組みの消費者へのアピールが可能となり、消費者は低炭素な消費生活への自らの変革へ結びつけることができる。

環境負荷低減に向けた企業からの情報提供として、環境ラベルがある。その中でも JEMAI が提供している CFP とエコリーフは、定量的環境情報の見える化を行うものとなっている。両者はいずれも LCA をベースとした算定を行い、第三者による認証を必要とするが、CFP は地球温暖化の指標であり、エコリーフは、様々な環境影響の開示をする点が異なっている。いずれの場合も算定の際には、製品ごとに計算ルールを示した PCR (Product Category Rule) が必要であり、これが一般的な LCA との違いとなっている。CFP は書面検証であるのに対し、エコリーフは対面検証であることや、ベースとなる ISO 規格が異なることなど、細かな点で差異があるが、現在、これら 2 ラベルの拡大、つまり一本化を検討している。

他の制度との連携としては、グリーン購入プレミアム基準の加点項目 (策定ガイドライン) に CFP とエコリーフが盛り込まれており、今後は義務にしたいと働きかけている。また、CFP を活用したカーボンオフセット制度施行事業も進行中である。これは、CFP で算定した排出量をクレジットにより相殺 (オフセット) するもので、どんぐりマークが貼付できる。加えて、どんぐりポイント制度が近々開始される予定である。これは、どんぐりマークのついた製品にポイントを付与するもので、消費者はそのポイントを集めて商品等と交換することができる。制度実施中は CFP の PCR 策定、認定、CFP 算出、検証にかかる費用が補助される。このようなライフサイクルシンキングは少しずつ政策や企業行動の中にも導入されてきている。

経団連では貢献量を定量評価することになったほか、国土交通省では住宅の評価、川崎市では事業者の環境技術の削減貢献量の見える化を実施するなど、広がってきている。

(注) 本報告は東京版をベースとしています。「どんぐりポイント制度」は、決定の時期的なことから、東京会場のみ詳しい説明がありました。

▲企業事例報告「キヤノンの CFP への取り組み」

キヤノン株式会社 環境統括センター 望月 規弘氏

現在、企業が環境に取り組む必要性として、環境規制や環境コストの制約によるものと、環境配慮製品の優先購入や環境配慮企業への優先投資のインセンティブによるものがある。リオ+20 で言われたグリーンエコノミー政策によって、積極的に環境に取り組んでいくことをアピールする必要が出てきた。こういった背景から、製品の環境情報を開示することは、重要と考えている。

キヤノンは、企業理念として「共生」を掲げ、環境経営を進めている。経営と環境の両分野の目的を「人類の幸福への貢献」として共生させることを目指している。環境ビジョンとしては、「つくる」、「つかう」、「いかす」といったライフサイクルの観点で取り組んでいる。複写機のライフサイクル分析をすると、生産段階は全体の CO2 排出量の 3% くらいしかないが、使用段階は 60% にもなる。つまり、生産段階の省エネ等もちろん進めているが、それ以上に製品の省エネが必要だとわかる。また、材料・購入部品の中では鉄、非鉄、樹脂、紙以外の「その他」が最も多いことなど、重要ポイントが把握できる。

LCA は 1992 年に導入し、カートリッジの回収リサイクルの評価を行った。その後、エコリーフラベルを取得し、エコリーフのシステム認定第 1 号となった。組織の環境効率（ファクター 2）についても取り組んできた。環境影響の中では GHG が現段階では最も重要と考えており、その意味で、CFP は重要である。CFP は世界に通用するもので、海外からも問い合わせがある。また、第 3 者検証であるため信頼性の担保ができています。今後も CFP を活用した CO2 の「見える化」による、製品開発も含めたライフサイクルマネジメントをしていくつもりである。

2013 年 10 月に認定された画像入出力機器の CFP-PCR は、エコリーフの PCR を引用して作成した。この製品の場合、使用条件で CFP が大きく左右されるため、単一条件での算出のみでは、ユーザーの実使用条件を反映できず、誤解を招くおそれがあるため、使用条件を柔軟にした追加表示や、計算式による追加表示を可能とした。さらに、紙の負荷が大きく、使用段階に紙を含めると製品の影響が見えなくなる可能性があるため、算定では分けることにした。

CO2 の評価は、以前は生産する段階で実施していたが、製品開発・設計時に評価を行うことにより、実際の製品開発に結果をフィードバックでき、CO2 目標の達成へとつながった。また、第 3 者認証を受けたデータとして、ユーザーへの信頼あるデータを用いた情報提供をすることが可能となった。